

ペトロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊が降った。割礼を受けている信者で、ペトロと一緒に来た人は皆、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたのを見て、驚いた。異邦人が異言を語り、神を賛美しているのを、聞いたからである。そこで、ペトロは、「この人たちが水で洗礼を受けるのを、誰が妨げることができますか。私たちと同様に聖霊を受けたのです」と言った。そして、その人たちに命じて、イエス・キリストの名によって洗礼を受けさせた。その後、コルネリウスたちは、ペトロになお数日滞在してくれるように願った。（使徒10：44～48）

ペトロが、主イエスのガリラヤにおける力ある業、十字架の死と三日目の復活を語り、この方を信じる者は罪の赦しを受けられると福音を話し続けていた。すると、この場で、御言葉を聞いていた一同の上に聖霊が降った。ペトロと一緒に来ていた兄弟たちはユダヤ人で、当然、割礼を受けていた。その人たちは皆、神の民の証しである割礼を受けていない汚れた異邦人にも聖霊の賜物が注がれ、異言を語り、神を賛美しているのを見て、驚いた。主イエスを信じて与る罪の赦しの福音はユダヤ人だけでなく、民族を超えて与えられるものであることを目の前に見たのである。ペトロは、「この人たちが水で洗礼を受けるのを、誰が妨げることができますか。私たちと同様に聖霊を受けたのです」と言った。自分たちと同じように聖霊に与ったのであるから、誰も、洗礼を受けることを妨げることにはできないと、その人たちに命じて、イエス・キリストの名によって洗礼を受けさせた。

ペトロの宣教によって、ローマの百人隊長たちに聖霊が降った出来事は、キリストの福音は民族の壁を超えるということであった。現在でも、民族間の偏見と差別は様々な悲劇を生み出しているが、当時は、民族差別は強固なものがあつた。それを乗り越えたことは時代を刷新することであつた。このことが起こる背後には、清浄、不浄の規範を取り除いた主イエスの教えに根拠がある。主イエスは、食べ物に関し、浄不浄の規定を廃止し、全ての食べ物を清いとされた。また、異邦人に関しても、ローマの百人隊長の息子やカナンの女の娘を癒やし、異邦人の求めに応じて、彼らと神の恵みを分かち合っておられる。何よりも汚れた罪人として烙印された人を訪ね、彼らを清い者とし、ユダヤ人の共同体に復帰させている。人間が規定した清浄、不浄の律法を無効にし、神の前に皆清い者とされた。主イエスが表された福音は、全ての人が神に愛されていることを告げることであつた。

パウロは異邦人問題に対し「すべて善を行う者には、ユダヤ人はもとよりギリシア人にも、栄光と誉れと平和があります。神は人を分け隔てなさいません（ローマ2:10）」と語り、割礼問題に対しても「私には問題ではありません。神は人を分け隔てなさいません（ガラテヤ2:6）」と、割礼の有無にかかわらず、主イエスの救いに与ると力説している。パウロは異邦人宣教を強力に推し進め、民族の分け隔てを明確に超えている。エフェソ書2章15節b～16節に「キリストは、ご自分において二つのものを一人の新しい人に造り変えて、平和をもたらしてくださいました。十字架を通して、二つのものを一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼしてくださいましたのです」と、十字架は敵意を滅ぼし、和解を実現したと宣言している。無割礼の異邦人が聖霊を受けたことは、福音が世界に広がる決定的な出来事で、エルサレム教会の革新となつていった。コルネリウスたちは、ペトロたちと信仰を同じくし、なお数日滞在してくれるように願った。